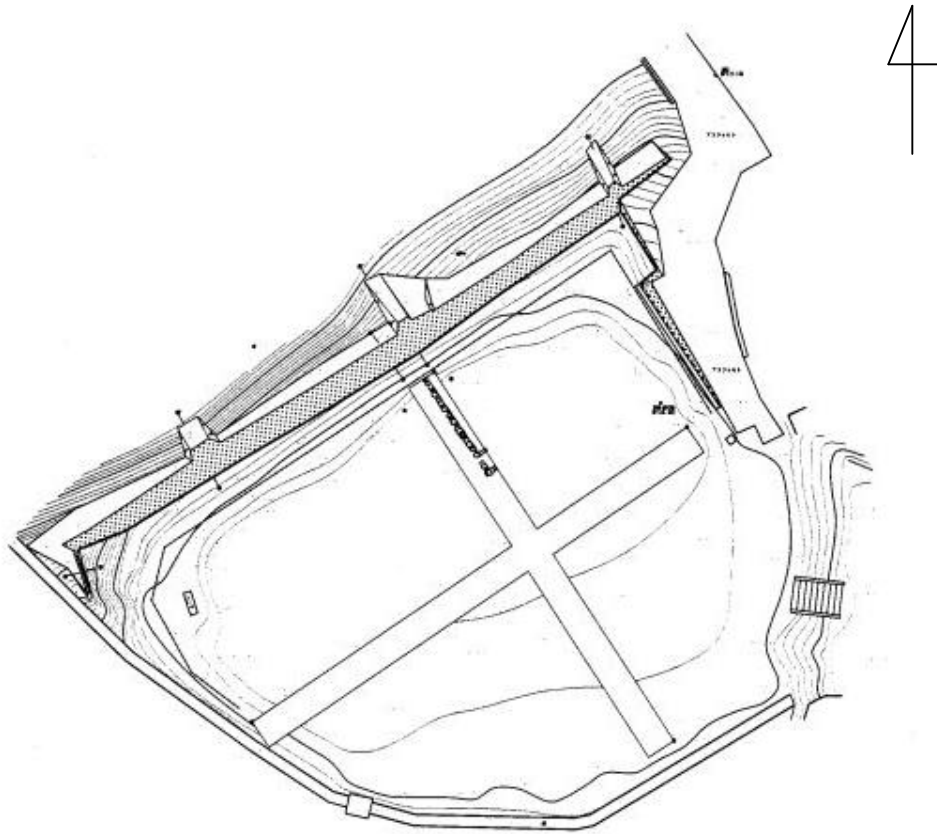


岐阜県史跡 金山城跡第4次発掘調査の結果について

◎調査期間 平成21年10月13日（火）～11月30日（月）終了

◎調査目的 古城山北側の麓にある伝米蔵跡と呼ばれる場所について、金山城跡の時代の遺構が残っているかどうかを確認し、北側にある石垣については清掃・検出作業を実施。

◎調査面積 調査範囲の面積約1,000 m² 内掘削調査した面積約130 m²



伝米蔵跡調査区平面図（S=1/500）

◎調査の成果

①伝米蔵跡（でんこめぐらあと）平坦面部分

- ・東西・南北方向の2つのトレンチ（溝）を幅2.0mで設定しました。南北トレンチの北側では川原石を積み上げた桁形の遺構を検出しました。長さ約6m、幅約0.8m以上（半分以上は東側に埋まった状態）で、検出時の高さは約0.5mでした。トレンチ壁面に残された川原石の石積みから判断すると1.0m程度の深さがあったと思われます。これは、明治11年から昭和20年まで約70年間営まれていた氷場（製氷場所）の貯水池ではないかと考えられます。東西トレンチも約1.5m掘り下げましたが、金山城跡の時期の遺構はみられませんでした。



南北トレンチ（南より）

児童公園を造る際に1.5mほど埋め立てたようです。



氷場の貯水池（南より）

古城山の山影になり、日中は日陰となるため、氷を造るのに適した場所です。



貯水池の石組（北より）

川原石を積んでいる様子が確認できます。

②北側石垣

・残存している北側石垣は伐採・除草をし、状態を確認しました。石垣はコの字状になっており、北面では長さ 46m、高さ 6.4m、西面では長さ 4m×高さ 1.2m、東面では長さ 1.6m×高さ 2.4mを測る。北面は上端から約 0.6m程度の川原石による積み直しがみられますが、それより下の石垣は金山城の時期と考えられます。

この伝米蔵跡は三の丸水の手へとお城を登っていく登城道（とじょうろ）があると想定されている場所です。山の麓であり、お城と城下町をつなぐ場所にあることや壮大な石垣からこの場所は家臣の屋敷があったのではないかと想定されます。



石垣東面（東より）

一部積み直していますが、当時の面影を残しています。



石垣西面（西より）

本来は上まで積まれていましたが、崩れてしまっています。



伝米蔵跡北面石垣全景（北より）

2. 出土した遺物

- ・平坦面部分では、金山城の時期の遺物は少数でしたが、石垣付近からは金山城跡と同じ時期と思われるかわらけ片、陶片（鉄釉碗や志野の破片）が出土しています。遺物は近代～現代にかけてのものが多くみられました。



伝米蔵跡出土遺物の一部